

庄原実業高校環境工学科と意見交換を行いました

令和3年1月20日

広島北部森林管理署

令和元年度からスタートした広島県立庄原実業高校「環境工学科」で林業を学ぶ生徒を対象にした森林環境教育で、3年生最後となる森林環境教育を1月20日に行いました。これまで、森林の持つ多面的機能、森林・林業・木材産業の現状、森林施業、新たな木材利用、国有林野事業及び広島県森林組合連合会事業の紹介など多岐にわたる座学に加え、実際の作業現場で高性能林業機械実演実習も行いました。最後の森林環境教育では、「国産材自給率50%を達成するには、どのような取組、活動が必要と思いますか。」と「地域材、広島県産材の需要拡大を図るために必要な取組は何だと思いますか」のテーマに意見交換を行いました。



意見交換の様子

2年前に森林環境教育がスタートした時と比べて生徒は、森林・林業・木材産業に対する理解が深まるとともに、今回の意見交換会では「スマホケースなど身近な生活用品の木製品化が必要。」、「机などは、できる限り地域材を利用した机を使う。」、「校舎内の床、壁などを木質化する。」など、様々な意見が出ました。

また、来年度の森林環境教育カリキュラムに対する意見では、「座学と実習を組み合わせたスタイルが良い。」、「木材に対する理解を深める意味でも木材加工の実習があれば良い。」、「実際の林業現場を見学したい。」の意見も出ました。



生徒からの意見を引き出す



意見やアイデアを出す生徒



アイデアを説明する生徒

広島北部森林管理署では、引き続き庄原実業高校での森林環境教育を通じた民有林の人材育成に積極的に取り組んでいきます。